

テーマ 近代中国の市鎮：農村の文化センター

適用分野

近代中国における地域社会の理解、市場町としての市鎮の理解

研究名称

清末民国期、江南デルタ市鎮社会の研究

氏名所属

稲田清一 教授

文学部 歴史文化学科

内容

●特徴

中国江南地方で農村地域の中心地として発達した市場町（市鎮）は、明代後半から商品経済の発展にもなあって成長しはじめ、清代後期には一つの県に20前後という高密度で分布するようになる。かつての一県一城、すなわち一つの県には一つの城壁に囲まれた行政都市＝県城しか存在せず、それを茫漠たる農村が圍繞していたのに比べ、大きな変化である。市鎮は、日中戦争、1950年代末からの大躍進政策や文化大革命で衰退していたが、80年代以降その役割は再評価され、再び活気を取りもどした。現在では再整備され「江南古鎮」として観光地化された市鎮も多い。このような市鎮を中心に周囲の農村部をあわせて形成された市鎮社会は、どのような構造をもち、いかなる機能をはたしてきたのか。文献と現地調査の両面から研究を行っている。

●研究内容

水郷地帯として名高い江南地方（長江下流デルタの南岸地域）は、過去1000年間、中国における経済的、文化的最先進地域であった。この地域では19世紀

以後、一定の文化的素養と社会貢献への意欲をもった市鎮在住の地域リーダーたちが市鎮の幹事（鎮董）となつて、水利、橋や道路の整備、飢饉対策など広範な地域的課題の解決に取り組むようになる。こうした自治的な活動を掘りおこすことによって、中国の基層社会の構造を明らかにし、ややもすれば官僚の支配する中央集権的な社会ととらえられがちな中国社会の、もう一つの側面に光をあてることをめざしている。



図1 江南の市鎮の風景



図2 江南の農村風景

キーワード

地域社会、市鎮、地域リーダー、中国江南地方、地方自治

連携方法

■ 講演 □ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究